

社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク 2016 年度 事業計画書

<実施期間>

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

<2016 年度の方針>

(1) NPO/NGO が自ら取り組む社会的責任（以下、SR）の普及
NPO/NGO が自らの組織で取り組む SR を推進するため、具体的な取り組みを紹介し共有する機会を広げる。

(2) 他セクターとの協働による SR の普及
さまざまなセクターと連携して SR への取り組みを促進するべく、NN ネットは NPO/NGO の取り組みの成果を他セクターと共有し、また他セクターの取り組みからも学ぶとともに、他セクターの SR への取り組みを促す NPO/NGO を育成・サポートする。

(3) 社会的影響力のある課題に対するマルチステークホルダープロセスの推進とアドボカシー（政策提言）の強化
持続可能な調達規格（ISO20400）／SDGs／2020 年の東京オリンピック・パラリンピックなどの社会的影響力の大きなイベントでマルチステークホルダープロセスを元に社会的責任が果たされることに尽力するとともに、社会的影響力のある課題の重要性、具体策を提言していくとともに、地球環境問題、貧困問題などの国際的な課題へのアプローチの過程で SR への配慮がなされること、またその担い手自身が社会的責任を果たしていくことの必要性を訴える。

<2016 年度の事業計画>

1. 啓発事業

[主旨]

・ SR およびマルチステークホルダープロセスを、NGO/NPO、企業、自治体など同プロセスに参加するセクター・アクターに対して啓発をしていく。同取り組みをする際は、彼らの関心が高いと思われる 2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックや持続可能な調達、あるいは彼らの参加が不可欠な持続可能な開発（SDGs）を切り口として検討する。

・ SR およびマルチステークホルダープロセスをより理解するために、実践事例へのニーズがあることに注目し、NN ネットとしては外部団体が行うセミナーなどに対し、SR 実践ツール集などのリソースを積極的に提供することを提案する。

・ NPO・NGO による SR 推進を進めるには取り組みのためのメリットを提示する必要があるとの考えにたち、助成財団に対し、SR 関係の取り組みを申請書に記述できるように働きかけを

行ったり、社会的認知の向上に向けた外部団体主催検定への設問化などを働きかける。（例：エコ検定）

[事業内容]

- (1) 主催：SR フォーラムの開催
 - ・総会時（2016年5月31日）に併催
 - ・11月のISO26000記念月に開催するかどうかは上期中に検討する。

- (2) 外部団体の取り組み支援（共催、後援など）
 - ・SR調達（CSOネットワーク）、SDGs（EPCやJANIC）の企画との共催、協力、後援
 - ・その他、幹事団体のネットワークを駆使して、SRのことを広く紹介していく。NGO/NPO向け、企業向け、自治体向けを意識する。

- (3) 会員や関係者向けの啓発ツール素材の提供
 - ・NNネット名刺のような、会員がSRに関心があり取り組んでいることをアピールできるフレームワークを提供していく。
 - ・NNネット定型の説明素材の提供：NNネット概要、SRおよびマルチステークホルダープロセスの意義を説明したパワーポイントを整備し、SR実践ツール集に掲載していく。

- (4) 勉強会
 - ・必要に応じてISO26000の国際会議の報告会などを政策提言チームと協力して開催する。（具体的なテーマ、回数は政策提言チームとこれから協議）
 - ・SDGsにおけるマルチステークホルダープロセスなどに関して勉強会を開催する。（EPCと共催）

2. 情報発信・広報事業

[主旨]

NPO/NGO の SR への関心を高め、行動変革を促していくことは、NPO/NGO が社会的な信頼を獲得し、他セクターと協働して社会的課題を解決していくために必須である。そのために、SR の意識向上および NPO/NGO 間の取り組みの共有や連携、他セクターも交えた議論のプラットフォームづくりを目的に、情報を発信していく。

[事業内容]

(1) NN ネットの活動の案内および報告

ウェブサイト、メーリングリスト、Facebook、Twitter などを通じ、「啓発事業」や「政策提言事業」に関する活動案内・報告を発信する。主催イベントについてはプレスリリースを発行し、メディアとの連携をはかる。

(2) ブックレットを活用した啓発活動

主催・共催・後援イベント会場で、ブックレット『策定に関わった NPO が読み解く ISO26000』『これからの SR—社会的責任から社会的信頼へ』を頒布する。また、ウェブサイトや SNS で定期的にブックレットの活用例などを紹介し、各団体・企業での研修や勉強会での活用を促す。

(3) SR に関する情報の発信

NN ネットウェブサイトや Facebook を通じ、SR に関する情報を継続して発信していく。特に、SR に関する情報・意見を会員団体にも呼びかけて発信する「NN ネットコラム」や、2015 年度にウェブサイト内に新設した「SR 実践ツール集」(<http://sr-nn.net/ngonposr/tool>) の内容を充実させる。特に SR 実践ツール集の広報についてはメディア・他誌への記事掲載の働きかけを行うほか、会員団体にも広報協力を依頼する。

3. 政策提言事業

[主旨]

社会的責任に関わる国際規格 ISO26000 発行および JIS 化を受けて国内の普及、啓発に関する事、策定中の持続可能な調達に関する国際規格 ISO/PC277(ISO20400)に関する事、日本国内の動きとして 2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに関する事、「社会的責任に関する円卓会議」などについて事業を推進する。関連する会議に、本ネットワークの代表協議者を派遣し、勉強会を開催するなどその内容を広く本ネットワーク会員をはじめとする NPO/NGO 関係者と共有する。

[事業内容]

(1) ISO26000 発行後の情報共有など

見直しが予定されている ISO26000 に関し、2013 年度に再結成された「ISO/SR 幹事会」の NGO 委員に NN ネット代表協議者（黒田、堀江）が参加し、ISO26000 の活用方法や、普及に関して他のステークホルダーの委員らと情報共有や意見交換を行う。

また、黒田は ISO26000 の発行後の組織（PPO: Post Publication Organization）の NGO ステークホルダーグループのメンバー代理を務める。

（2）ISO26000 をはじめとする SR の普及をめざし、イベント、セミナーを開催する
啓発チームと連携して ISO26000 をはじめとする SR 普及のためのイベント、セミナーを開催する。これらのイベントには NPO/NGO 関係者だけでなく、ISO26000 の元起草委員や、企業、自治体からも参加してもらうなど、他セクターからの協力も仰ぐ。

（3）国際会議

今年度開催される国際会議に代表協議者を派遣するかまたは、国際会議に参加した NGO 関係者を招いて勉強会を開催する。

（4）ISO20400/PC277 の策定過程への関与

持続可能な調達に関する国際規格 ISO20400/PC277 の策定にあたり、コメント検討会の開催などを通じて NPO/NGO の声を集め、「国内検討 WG」での議論に反映させる。

（5）東京オリンピック・パラリンピックに関する勉強会の開催

2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを社会的責任のあるものにしていくため、また SR やサステナビリティを社会に浸透させる機会にするために、NPO/NGO 関係者や企業セクターなどと勉強会を開催する。

（6）社会的責任に関する円卓会議（以下、SR 円卓会議）への参画と推進

SR 円卓会議に本ネットワークの代表協議者が委員として参加すると同時に、参加するセクター間での意見交換を促し、積極的な活用に結び付けるよう働きかける。また、2015 年 9 月に国連で採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）の国内実施についても、同会議を通じて活発化を図る。

（7）「ビジネスと人権」に関する勉強会の開催

2011 年に発表された国連ビジネスと人権に関する指導原則に関し、国別行動計画（NAP : National Action Plan）策定を検討する動きがあること踏まえて、専門家等を招いた勉強会を開催する。

2016年度組織運営（事務局業務）計画

<実施期間>

2016年4月1日～2017年3月31日

<業務計画>

1. 会議等の業務

(1) 第9回 通常総会の開催

日 時：2016年5月31日（火） 16：00～17：00

会 場：千代田区立日比谷図書文化館 セミナールーム B（東京都千代田区）

議 題：

- ・ 2015年度事業報告・決算の承認
- ・ 2016年度事業計画・予算の承認
- ・ NN ネットからの代表協議者の選出について
- ・ 幹事団体の選出について
- ・ 監事の選出について
- ・ その他

(2) 幹事会の開催

- ・ 第93回幹事会 2016年4月12日（火）
場所：日本NPOセンター
- ・ 第94回幹事会 2016年5月10日（火）
場所：日本NPOセンター
- ・ 第95回幹事会 2016年6月21日（火）
場所：日本NPOセンター
- ・ 第96回幹事会 2016年7月19日（火）
場所：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
- ・ 第97回幹事会 2016年9月20日（火）
場所：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
- ・ 第98回幹事会 2016年10月18日（火）
場所：日本NPOセンター
- ・ 第99回幹事会 2016年11月15日（火）
場所：日本NPOセンター
- ・ 第100回幹事会 2016年12月20日（火）
場所：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
- ・ 第101回幹事会 2017年1月17日（火）
場所：日本NPOセンター

- ・ 第 102 回幹事会 2017 年 2 月 21 日 (火)
場所：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
- ・ 第 103 回幹事会 2017 年 3 月 21 日 (火)
場所：日本 N P O センター

2. 会員に対する業務

(1) 会員へのフォローアップ

- ・ 会員の入会、継続、休会等に伴う業務を行う。
- ・ 会員メーリングリストの運営と管理を行う。
- ・ 会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事概要および次回幹事会日程を会員メーリングリストに配信する。

(2) 会員データベース管理

- ・ 会員情報の整理と管理を行う。

3. 経理等の業務

(1) 日常的な会計

- ・ 円滑な業務執行を行うために、現金等の動きについて記録し、資金の動きを明確にする。

(2) 資金管理と検査

- ・ 現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行う。
- ・ より本ネットワークの資金状況を把握するために、引き続き決算を活動計算書で報告する。

4. 総務関連の業務

(1) ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・ ウェブサイトの管理・運営を行う。

(2) 什器備品等の管理

- ・ 什器備品の発注や管理等についての業務を行う。

5. その他

- ・ 日本 N P O センターが事務局を担う。

以上